



## 戦後70年談話で 日本の名誉回復を

今夏、安倍首相が発表する戦後70年談話について、有識者による検討が始められるなど、環境整備も進められています。一方で、中国や韓国政府から、「従来の反省と謝罪を盛り込むべき」という発信もなされていますが、正しい歴史観に基づく日本の姿勢を内外に鮮明にすべきです。幸福実現党としては、日本の誇りを取り戻すべく、新談話において、「河野談話」「村山談話」の白紙撤回を首相に強く求めるものです。



幸福実現党 党首 **秋 量子**

1969年、東京都生まれ。國學院大學文学部史学科卒業。大手家庭紙メーカー勤務を経て、1994年、宗教法人幸福の科学に入局。常務理事などを歴任。幸福実現党に入党後、女性局長などを経て、2013年7月より現職。

### 党員募集

幸福実現党にあなたも参加しませんか

#### 入党資格

- ①幸福実現党の理念と綱領、政策に賛同される方
- ②満18歳以上の方

- 党費は年間5,000円です。
- 資格期間は党費を入金された日から1年間です。
- 党員には機関紙「幸福実現NEWS」(月1回発行)が送付されます。



**幸福実現党** hr-party.jp

発行所 幸福実現党本部 〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-8 電話 03-6441-0754 ©幸福実現党本部 2015年

戦後70年、**天皇皇后両陛下が**パラオへ慰霊訪問

幸福の科学グループ創始者 兼 総裁 大川隆法  
幸福実現党創始者 兼 総裁

「公開霊言」シリーズ

パラオ諸島 **ペリリュー島** 守備隊長  
**中川州男大佐の霊言**

隠された“日米最強決戦”の真実

戦後70年をむかえる、いま—  
すべての日本人に知ってほしい。  
祖国とアジアの同胞への愛のために、  
私たちが命をかけて戦ったことを。

**絶賛発売中!**  
誇り高き日本軍の実像!

幸福の科学出版 ☎0120-73-7707 http://www.irhpress.co.jp/ 発行/幸福実現党 1,400円(税込1,512円)

この国に、もっと自由を。  
**幸福実現党**

**4月・天皇皇后両陛下  
慰霊のためパラオ御訪問**



# 日本の誇りを取り戻せ

# ペリリュー島の 戦いの真実

**幸福実現NEWS**  
THE HAPPINESS REALIZATION NEWS April 2015 Vol.67

# 「ペリリュー島の戦い」が伝える真実—— 祖国防衛、アジア解放のために命を懸けて戦った日本軍

## 本土防衛のための徹底抗戦「ペリリュー島の戦い」

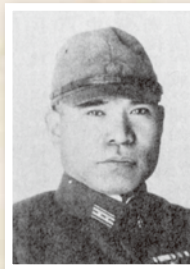
今年4月、天皇皇后両陛下が慰霊のためパラオへ御訪問されます。

先の大戦時、パラオのペリリュー島で、日米の最強部隊が死闘を繰り広げました。1944年9月、中川州男大佐が指揮する守備隊約1万1000人と米軍約4万8000人が激突。日本軍は、アメリカ軍の本土上陸を1日でも遅らせるため、徹底的な持久戦を敢行。戦いは、2～3日で終わるというアメリカ側の

予想を裏切り、約70日間にもわたりました。日本軍は、アメリカ最強と呼ばれた第一海兵師団を壊滅させる奮闘を見せましたが、武器・弾薬ともに底を尽き、中川大佐は自決。守備隊のほぼ全員が玉砕しました。



ペリリュー島 日本軍トーチカ



### 知られざる名将・ 中川州男大佐

日中戦争を最前線で戦い、指揮官の才能を認められた叩き上げの軍人であり、島内に500もの洞窟などを作る徹底した合理的戦法で戦った。一方、性格は寡黙にして真面目で、兵への細やかな心配りを忘れなかったという。

## 共存共栄の精神で、パラオに尽くした日本

この戦いでは、日本軍が強制退去させたため、島民の犠牲者は一人もいませんでした。現地では、その逸話が残っています。

ペリリュー島の島民と一緒に戦いたいと申し出ると、守備部隊の中川州男隊長に「帝国軍人が貴様ら土人と一緒に戦えるか!」と拒否された。日本人は仲間だと思っていた島民は、裏切られ悔し涙を流した。しかし、島民を乗せた船が島を離れた瞬間、日本兵が全員、浜に走り出て、一緒に歌った歌を歌いながら手を振って島民を見送った。先頭には、笑顔で手を振る隊長の姿が。その瞬間、島民は、あの言葉は自分たちを救うためだったと悟った。

また、パラオは欧米列強の植民地となり、1885年以降スペインから過酷な搾取を受けた後、ドイツへと売却。しかし、1920年、国際連盟から委託され、日本が統治してから、パラオに学校、病院、道路などのインフラが整備され、経済も発展。今日、「日本の統治時代が一番良かった」という声が多く、パラオは大の親日国です。



日本統治下で近代化したパラオの街並み

## 歪んだ歴史観を糺し、日本に誇りを取り戻せ

今日、命を懸けて、日本やパラオの人々を守り抜いてきた日本人がいた美談はほとんど伝わっていません。むしろ、「南京大虐殺」や、いわゆる「従軍慰安婦」など、日本軍があたかも略奪と暴行の徒のように宣伝されているのが現実です。しかし、こうした軍紀の高い日本軍が、南京で30万人も民間人を虐殺するというのは考えられない話です。

日本は欧米列強と戦うことで、白人優位の人種差別政策を打ち砕くと共に、アジア諸国を植民地から解放してきました。戦後70周年の今こそ、自虐史観を改め、正しい歴史観を共有することで、日本の誇りを取り戻すべきときです。